



13/3 月期 決算説明資料

eGuarantee

2013 年 5 月 21 日

本資料は、経営戦略等に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料には、当社に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づき、本資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提（仮定）の下になされています。

これらの記述または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり、または将来実現しないという可能性があります。

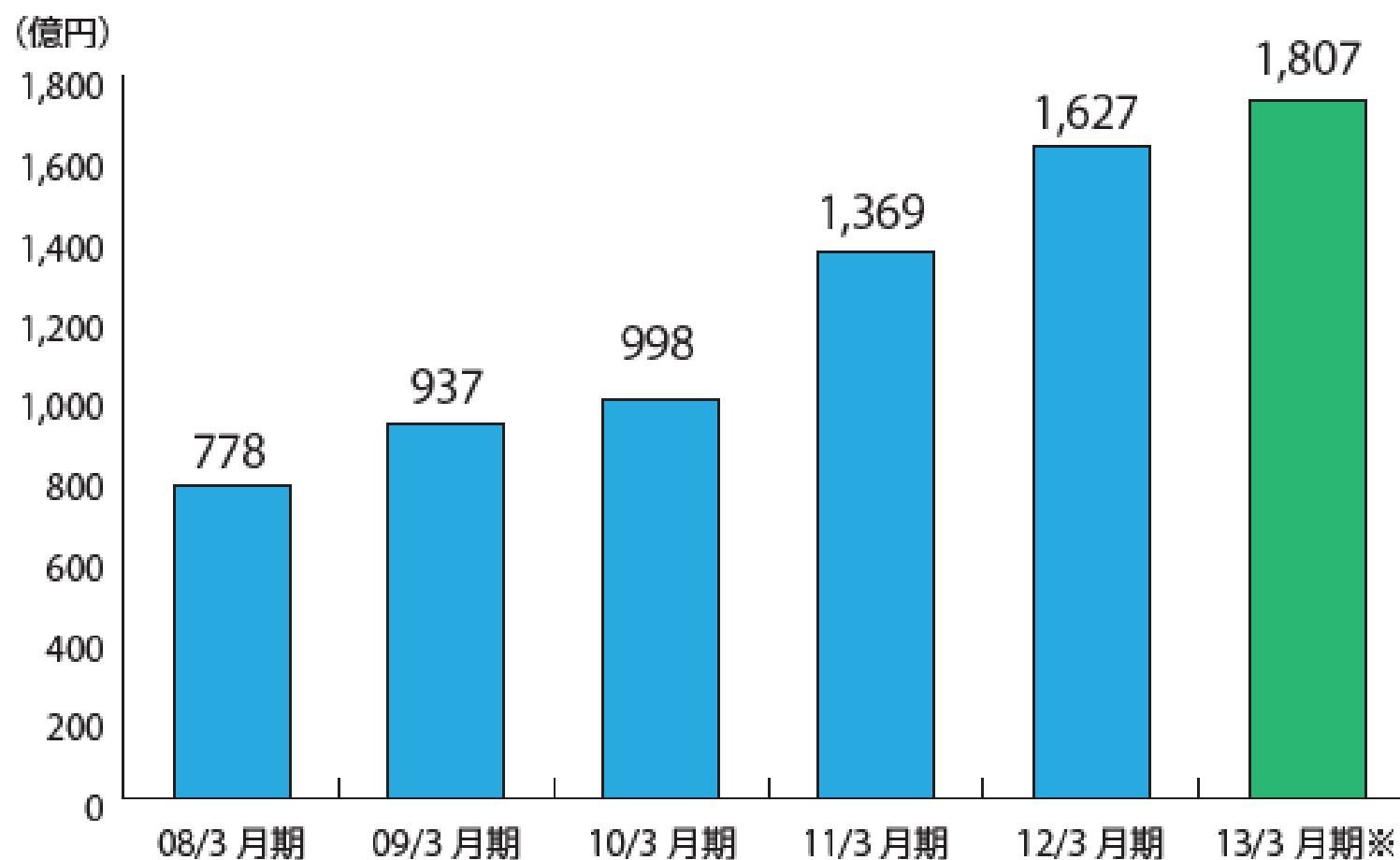
また、本資料に記載されている当社以外の情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

イー・ギャランティ株式会社

13/3 月期 業績概要

1. 保証残高 拡大

- 3月末の保証残高は 1,807 億円（対前期末比 11.1%増）。



※(保証残高は売掛債権保証サービス及び買取債権保証サービスに係る保証債務を合計したもの)

2. 連結損益計算書

- 低リスク引受を継続して行った結果、売上高は前年同期比約 5.9%増加。
- 流動化手法の多様化とファンドへの流動化強化により、利益率は上昇した。

単位＝百万円
比率＝％

	12/3 月期	構成比	13/3 月期	構成比	増減	増減率
売上高	3,416	100.0	3,617	100.0	201	5.9
売上総利益	2,094	61.3	2,319	64.1	225	10.7
営業利益	842	24.7	1,031	28.5	189	22.4
経常利益	854	25.0	1,048	29.0	194	22.7
当期純利益	468	13.7	578	16.0	110	23.5

3. 対期初予想比

- ハイリスクゾーンを避けた案件引受を堅実に進め、売上高は期初予想通り。
- ファンドの規模拡大によるリスク引受力の向上と最適化により、営業利益・経常利益・当期純利益のいずれも期初予想を上回った。

単位＝百万円
比率＝％

	13/3 月期 (期初予想)	構成比	13/3 月期 (実績)	構成比	増減	達成率
売上高	3,640	100.0	3,617	100.0	△23	99.4
営業利益	980	26.9	1,031	28.5	51	105.2
経常利益	1,000	27.5	1,048	29.0	48	104.8
当期純利益	530	14.6	578	16.0	48	109.1

4. 連結貸借対照表

単位=百万円
比率=%

資産の部				
	12/3 期末	構成比	13/3 期末	構成比
流動資産	5,874	88.6	6,732	83.8
現預金	4,617	69.6	5,429	67.6
前払費用	620	9.4	1,052	13.1
未収入金	11	0.2	57	0.7
その他	624	9.4	194	2.4
固定資産	757	11.4	1,296	15.9
資産合計	6,631	100.0	8,029	100.0

□一部リスク移転先との契約更新及び拡充により前払費用が 432 百万円増加。

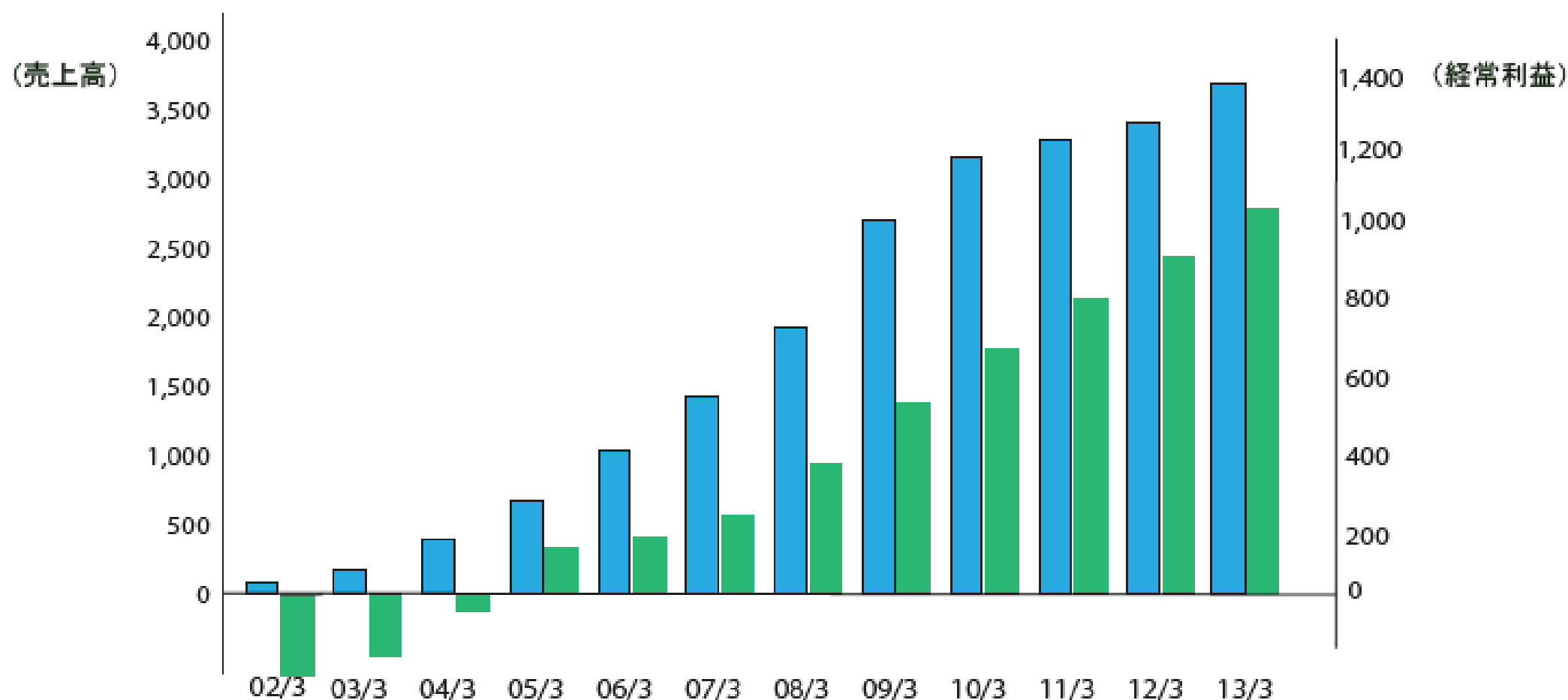
□E S O P 導入による自社株式買付に伴い、長期借入金が 212 百万円、自己株式が 278 百万円増加。

□ファンド規模拡大に伴い、少数株主持分が 455 百万円増加。

負債の部				
	12/3 期末	構成比	13/3 期	構成比
流動負債	2,282	34.4	2,793	34.8
保証履行引当金	85	1.3	243	3.0
前受金	1,833	27.6	1,964	24.5
その他	364	5.5	586	7.3
固定負債	65	1.0	291	3.6
長期借入金	—	—	212	2.6
その他	65	1.0	79	0.9
負債合計	2,348	35.4	3,084	38.4
純資産の部				
株主資本	3,667	55.3	3,877	48.3
資本金	1,418	21.4	1,436	17.9
資本剰余金	828	12.5	846	10.5
利益剰余金	1,421	21.4	1,873	23.3
自己株式	△0	△0.0	△278	△3.5
新株予約権	42	0.6	38	0.5
少数株主持分	572	8.6	1,028	12.8
純資産合計	4,283	64.6	4,944	61.6
負債純資産合計	6,631	100.0	8,029	100.0

5. 12 期連続増収増益を達成

□ 2000 年の設立以来、每期連続で増収増益を維持。



6. 来期の連結業績見通し

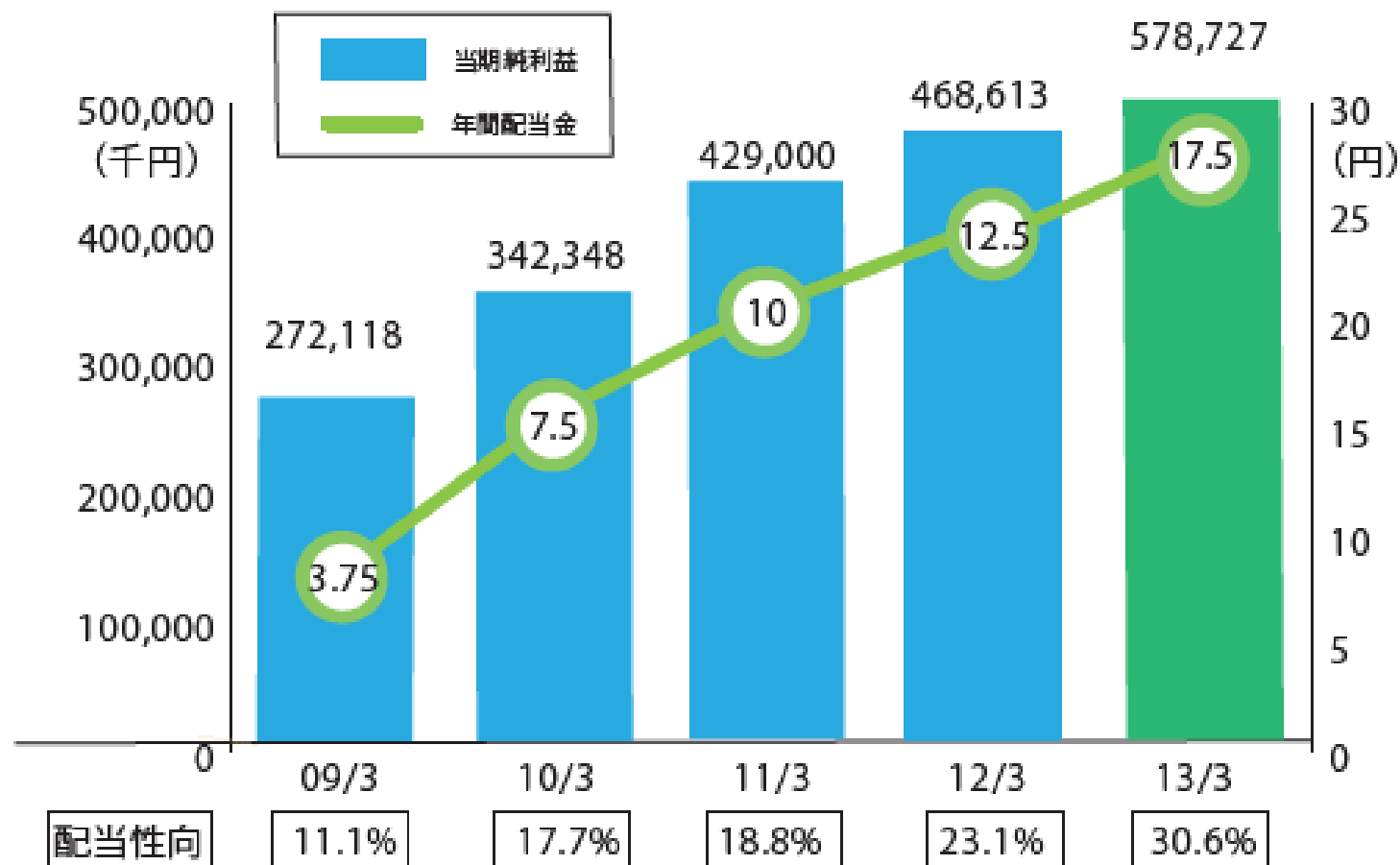
- 景気回復傾向に対応した顧客の売上拡大に寄与するサービスの投入や地方銀行との関係を今まで以上に強化させることで問合せ件数の増大を図り、売上拡大を目指す。
- 中小企業円滑化法の期限切れを背景に、資金調達を必要とする顧客をターゲットとして、金融機関向け保証サービスのラインナップ拡充を図り、金融機関からの保証引受を強化。

単位＝百万円
比率＝％

	13/3 月期 (実績)	14/3 月期 (予想)	増減比
売上高	3,617	4,000	110.6
営業利益	1,031	1,280	124.2
経常利益	1,048	1,300	124.0
当期純利益	578	700	121.1

7. 配当政策

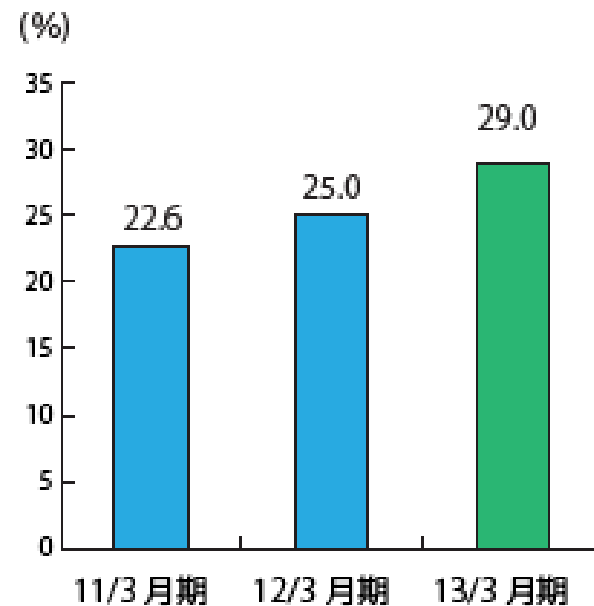
- 13 年 3 月期の配当は 1 株 17.5 円を予定。
- 100 株以上保有されている株主様に対し、クオカード 1,500 円相当分の株主優待制度を導入。



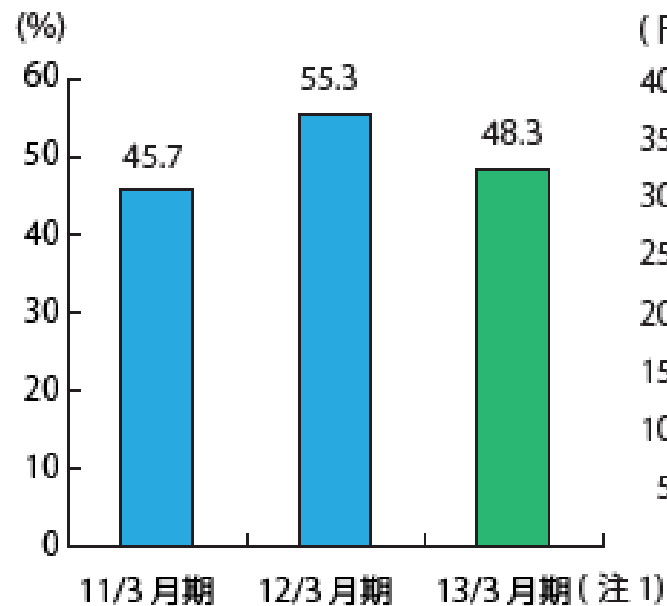
(13 年 3 月 1 日付で 1 株を 2 株とする株式分割を行っており、12/3 月期以前の配当については、分割後の金額を遡及して記載)

8. 主要な経営指標

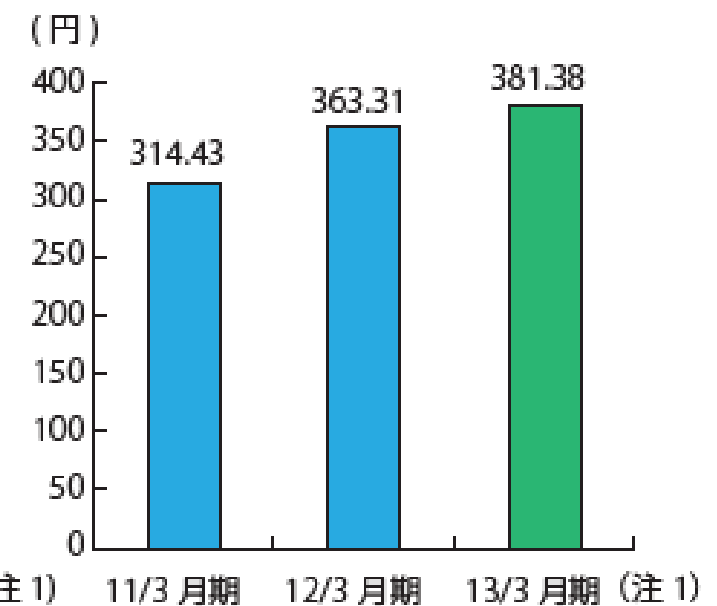
売上高経常利益率



自己資本比率



1 株当たり純資産 (注 2)

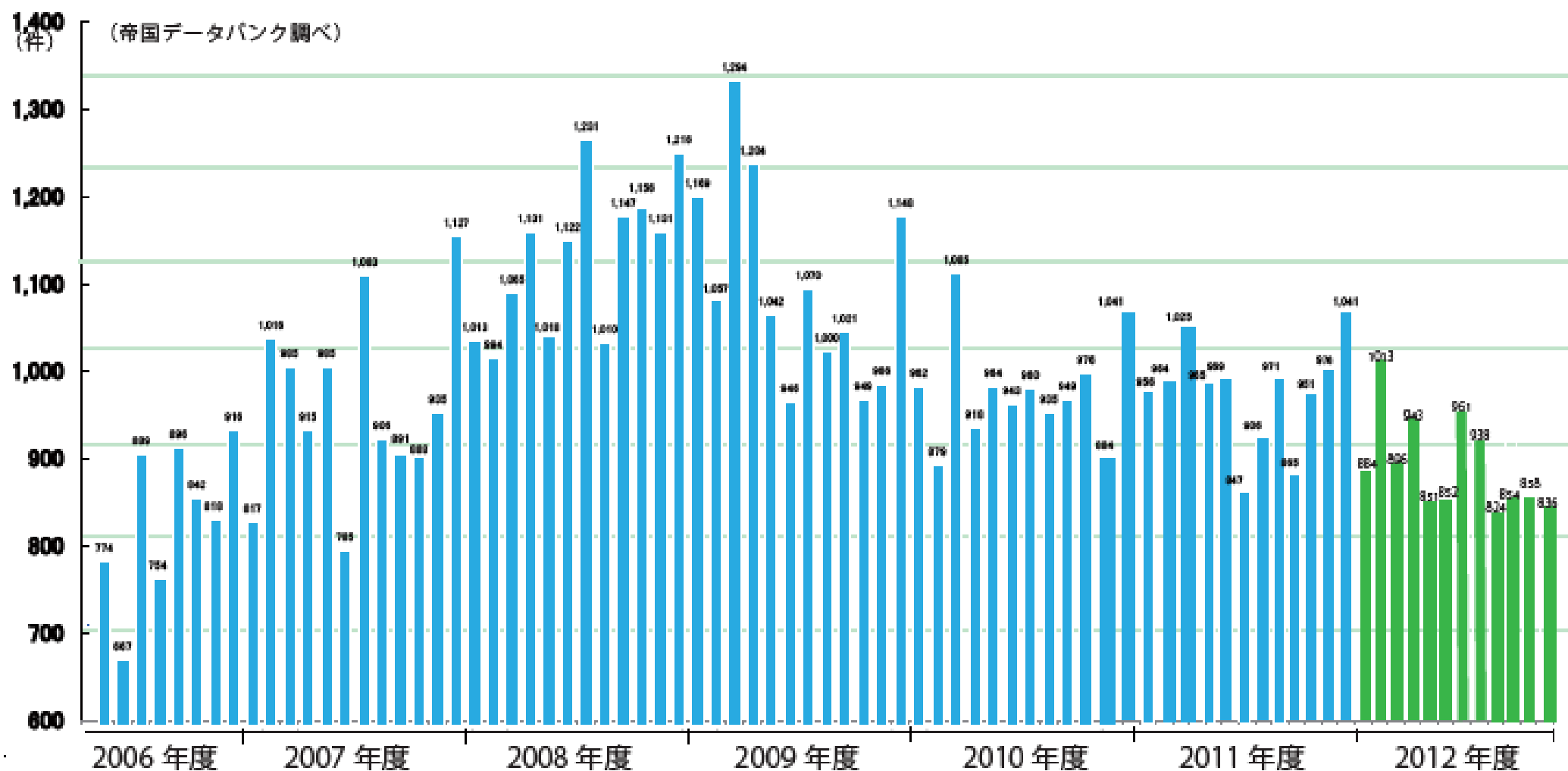


(注 1)「従業員持株会支援信託 E S O P」が保有する当社株式 278 百万円を自己株式として控除しております。

(注 2) 13 年 3 月 1 日付で 1 株を 2 株とする株式分割を行っており、分割後の金額を遡及して記載。

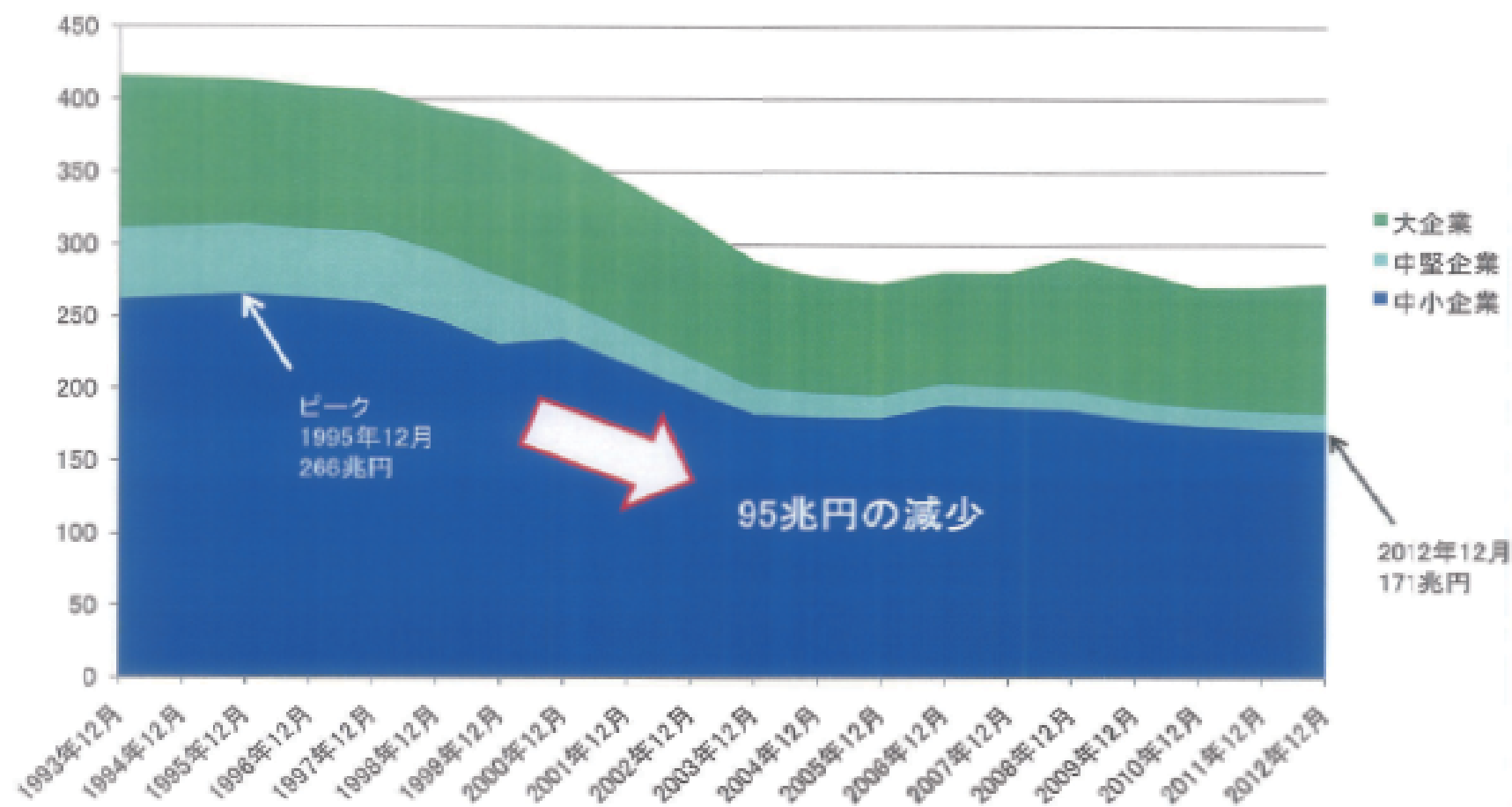
14/3 月期の重点施策

全国倒産件数の推移（月次件数）



中小企業向け貸出動向

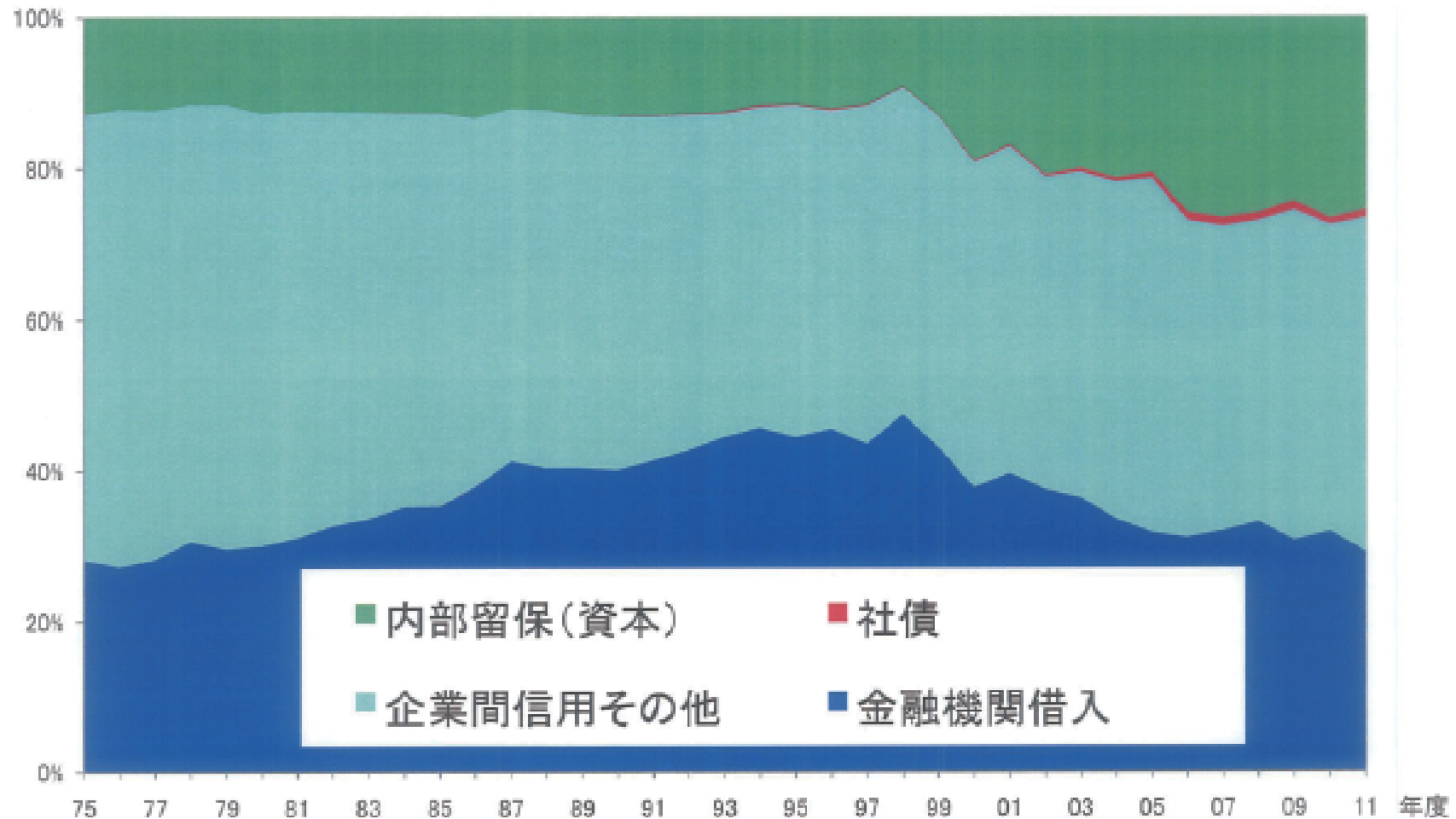
□ 金融機関による中小企業向け貸出は徐々に減少



(出所) 日本銀行「貸出先別貸出金」

中小企業の資金調達

- 金融機関からの借入が減少する一方、企業間信用の割合は増加傾向にある。

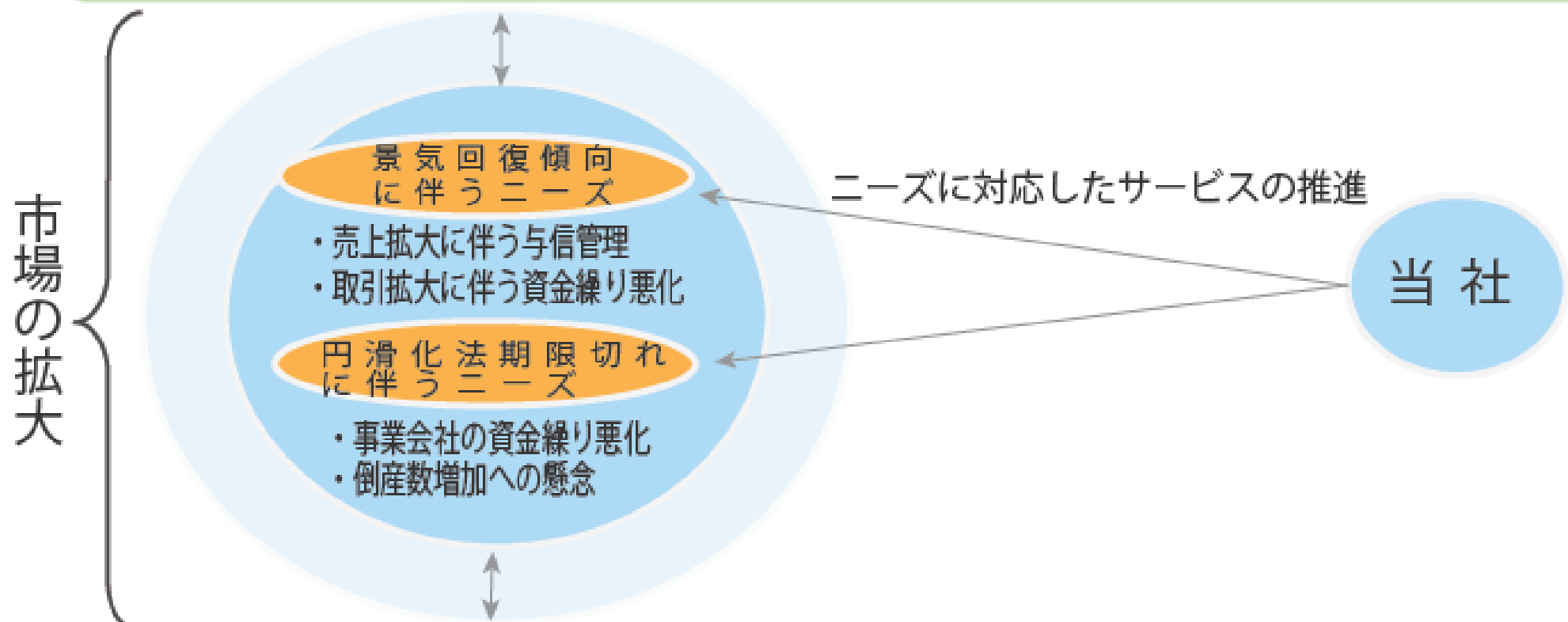


(出所) 財務省「法人企業統計」 資本金1億円未満の全産業(除く金融業、保険業)の統計

14/3 月期の取り組み

外部環境 景気が回復傾向を見せながらも、中小企業円滑化法の期限切れを迎え、倒産増加が意識される1年。

基本方針 外部環境の変化に伴い、増加する企業間信用に対して、ニーズにあったサービスを市場に提供するとともに、東証1部上場による認知度向上を背景に、拡大するクレジットリスク市場での地位確立を図る。



14/3 月期 重点施策

1. 顧客の売上高拡大に寄与するサービスの推進
2. 問合せの増加と社内フローの見直し
3. 審査データベースの拡充
4. 金融機関向けサービスの強化

14/3 月期 重点施策①

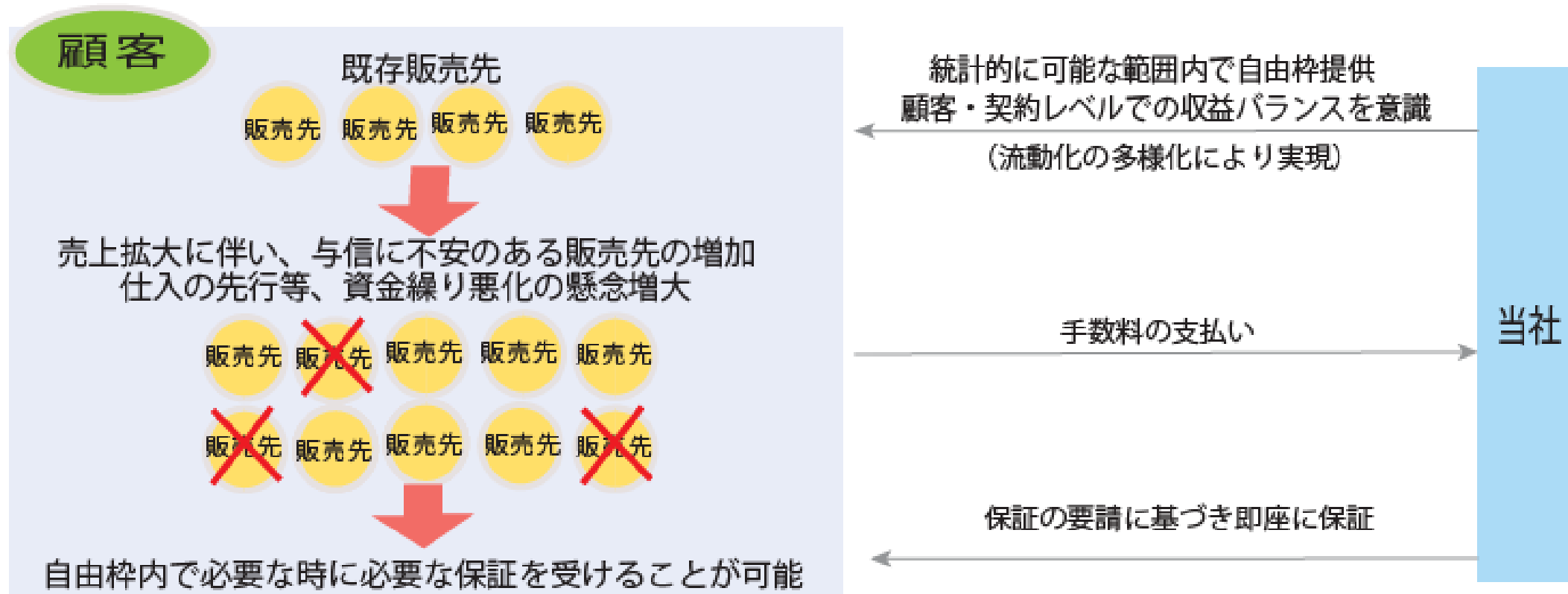
顧客の売上拡大に寄与するサービスの推進

保証自由枠の利用促進

予め顧客に対し一定の保証枠を提供することで、保証枠の範囲内であれば、顧客の必要な時に必要な保証を受けられる環境を整備する。

長期契約の利用促進

長期契約を可能にすることで、貸倒リスクの不安を長期にわたり排除し、顧客の事業安定化を図る。



14/3 月期 重点施策 ②

問合せの増加と社内フローの見直し【1】

地銀との関係強化

地方拠点強化を図るとともに、チャネルとの人員受入を図る等、1行1行との関係を深化させ、問合せ数の増加を目指すとともに認知度を向上させブランド力の強化を図る。

提携先地銀 計 43 行

- | | | |
|-----------|----------|---------|
| ・阿波銀行 | ・伊予銀行 | ・岩手銀行 |
| ・大分銀行 | ・大垣共立銀行 | ・近畿大阪銀行 |
| ・山陰合同銀行 | ・滋賀銀行 | ・四国銀行 |
| ・静岡銀行 | ・十八銀行 | ・荘内銀行 |
| ・常陽銀行 | ・第四銀行 | ・千葉銀行 |
| ・鳥取銀行 | ・トマト銀行 | ・名古屋銀行 |
| ・西日本シティ銀行 | ・八十二銀行 | ・肥後銀行 |
| ・百十四銀行 | ・広島銀行 | ・福井銀行 |
| ・北海道銀行 | ・宮崎銀行 | ・武蔵野銀行 |
| ・山口銀行 | ・山梨中央銀行 | ・京都銀行 |
| ・百五銀行 | ・東邦銀行 | ・佐賀銀行 |
| ・南都銀行 | ・山形銀行 | ・青森銀行 |
| ・北都銀行 | ・仙台銀行 | ・足利銀行 |
| ・東京都民銀行 | ・東京スター銀行 | ・群馬銀行 |
| ・七十七銀行 | | |

等

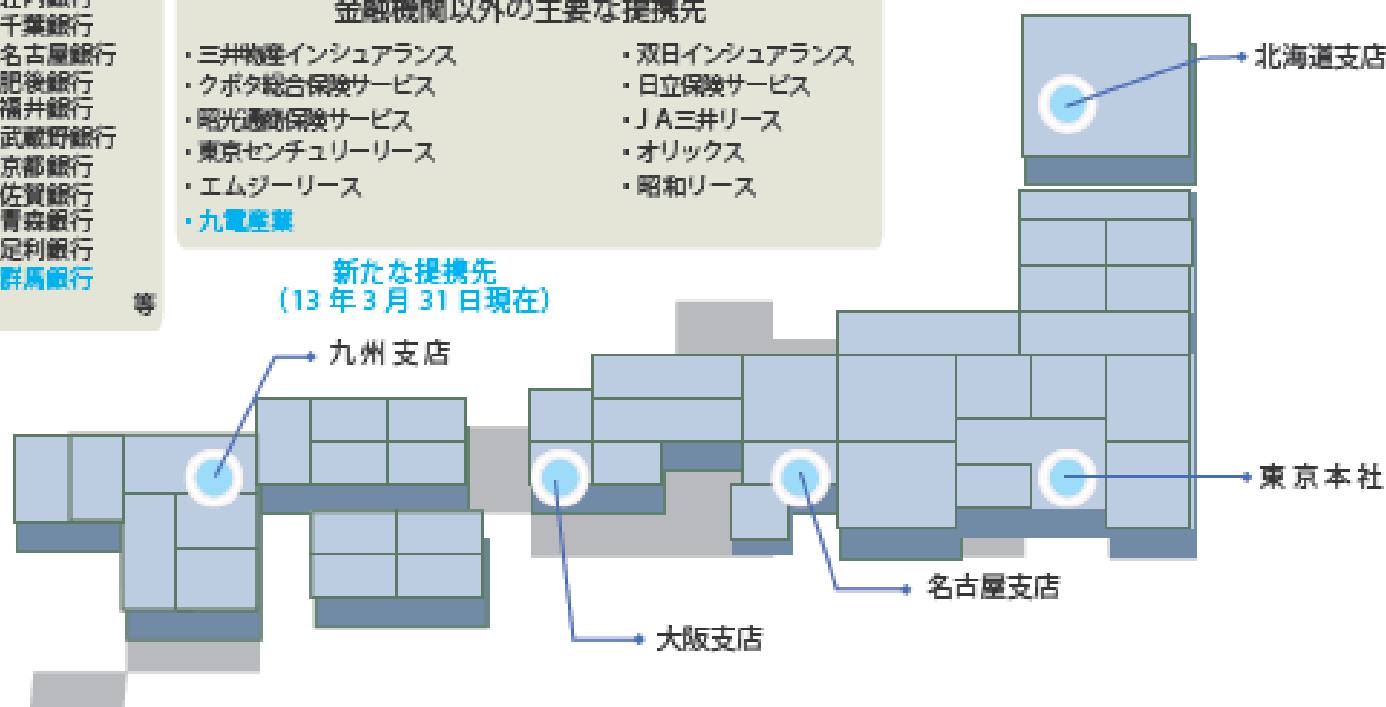
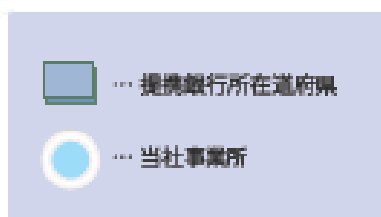
地方銀行以外の提携先金融機関

- | | |
|---------|---------|
| ・リソな銀行 | ・岡三証券 |
| ・新生銀行 | ・いちよし証券 |
| ・西武信用金庫 | ・SBI証券 |

金融機関以外の主要な提携先

- | | |
|---------------|-------------|
| ・三井物産インシュアランス | ・双日インシュアランス |
| ・クボタ総合保険サービス | ・日立保険サービス |
| ・昭光通商保険サービス | ・J A三井リース |
| ・東京センチュリーリース | ・オリックス |
| ・エムジーリース | ・昭和リース |
| ・九電産業 | |

新たな提携先
(13年3月31日現在)

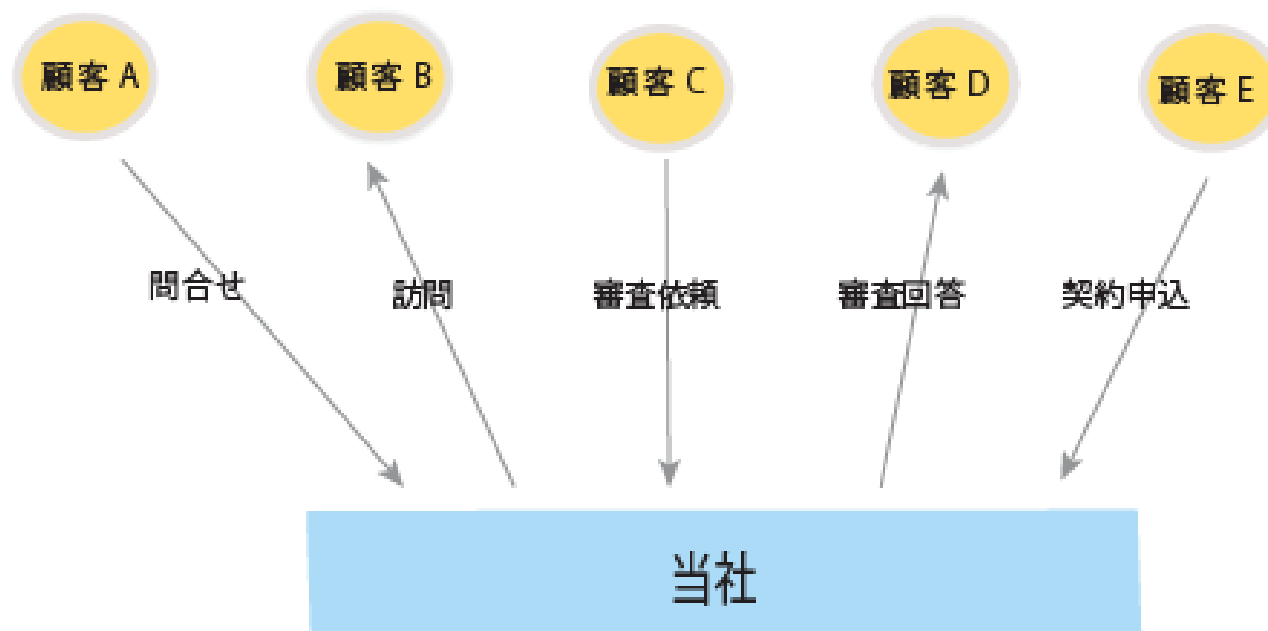


14/3 月期 重点施策②

問合せの増加と社内フローの見直し【2】

営業進捗管理の強化

増加した問合せに対応するために、営業進捗管理プロセスの見直しを行い、進捗管理の徹底を行う。



営業進捗管理のイメージ
顧客 A 社…問合せ段階
顧客 B 社…訪問段階
顧客 C 社…審査依頼段階
顧客 D 社…審査回答段階
顧客 E 社…契約申込段階

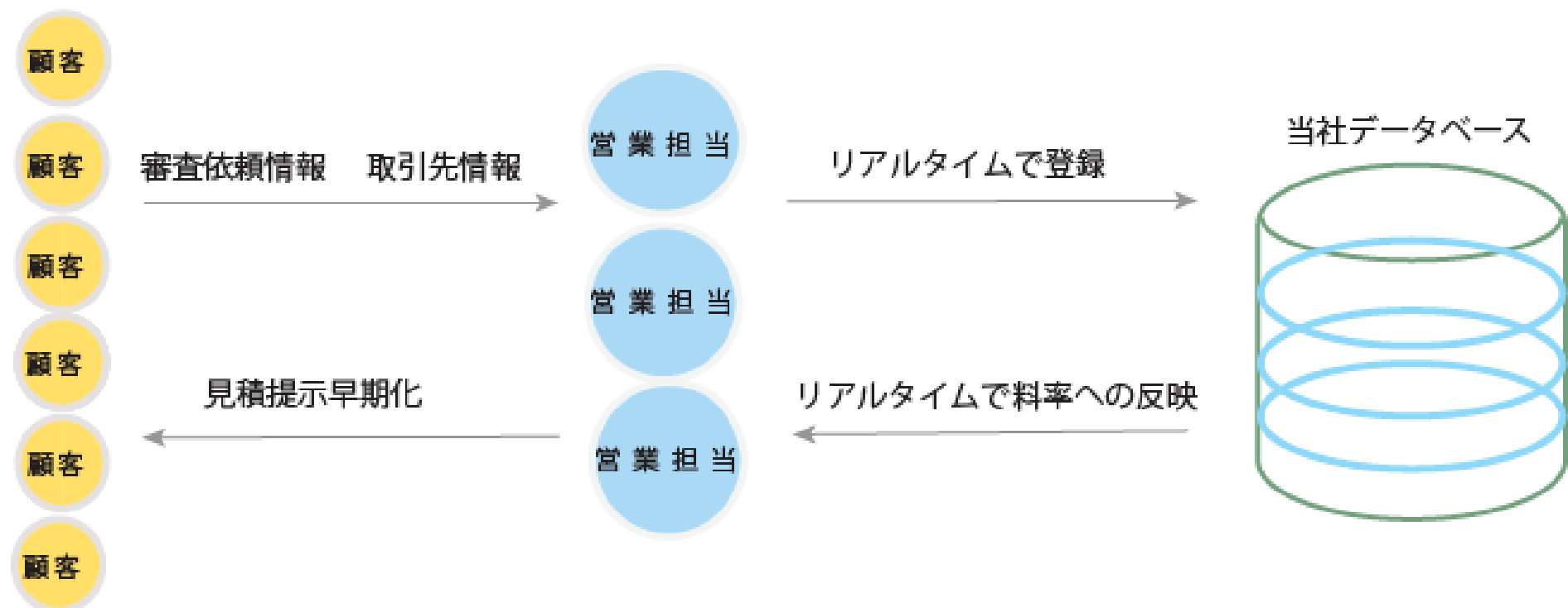
14/3 月期 重点施策 ③ 審査データベースの拡充

データベース拡充

情報項目の細分化と営業担当によるリアルタイム登録を実施し、環境変化に迅速に対応できるようデータベースを構築する。

適切なプライシング

データベース拡充に合わせ、審査結果の料率への反映を適切・スピーディーに行い、営業現場での見積提示早期化を目指す。

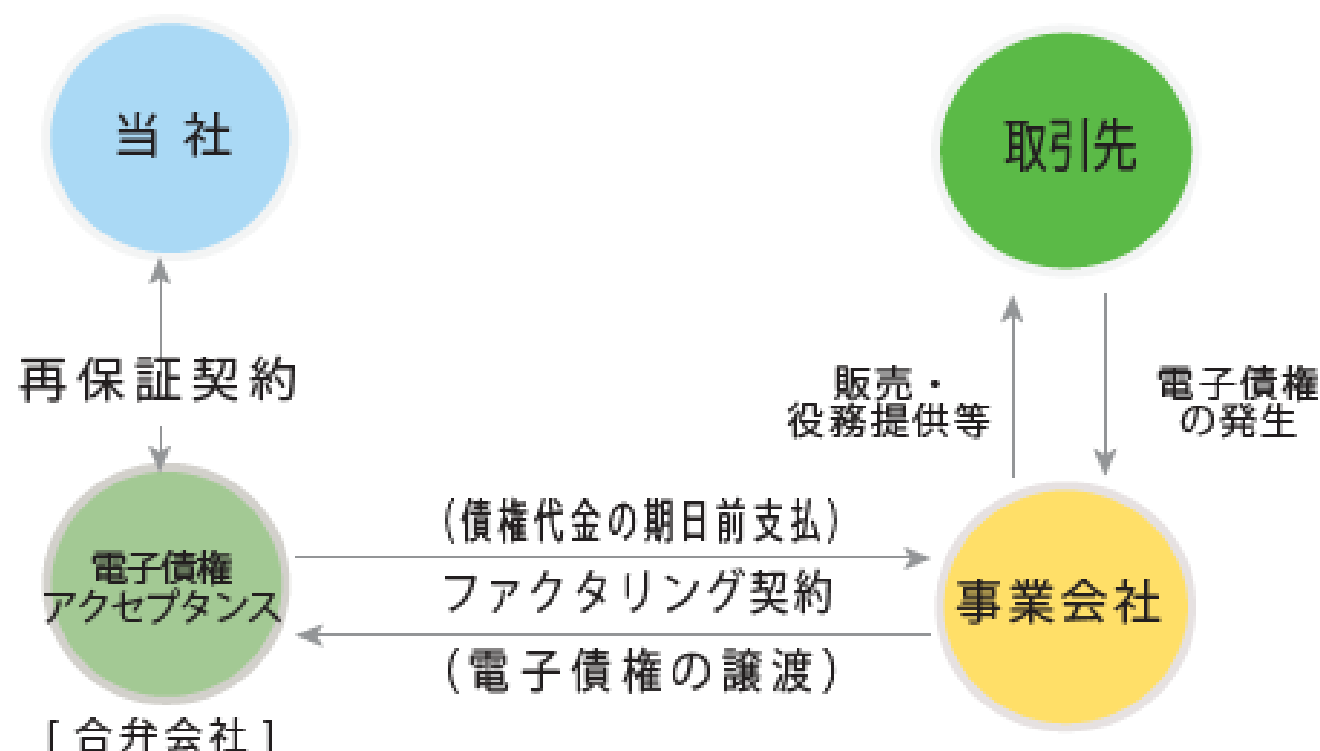


14/3 月期 重点施策 ④

金融機関向けサービスの強化

電子記録債権

□平成 24 年 4 月に電子記録債権の割引・買取事業を行う電子債権アクセプタンス(株)をNECキャピタルソリューション(株)との合併で設立。



・電子記録債権の形式で発生した売掛金や手形を電子債権アクセプタンス(株)が買取りを実施。

・電子債権アクセプタンス(株)が引受けたリスクの再保証を行う。

本資料に関するお問い合わせ先
イー・ギャランティ株式会社 経営管理部
03-5447-3566